

## 他人の細胞で再生医療 日立やエーザイ、実用へ投資加速

2017/4/1 2:00 | 日本経済新聞 電子版

他人の組織から作って備蓄した細胞を使う再生医療製品の実用化に向け、国内企業が投資を加速する。日立製作所は細胞を大量に自動培養する装置の開発拠点を新設するほか、日本トリムは胎盤などから採取した細胞から医薬品を開発する子会社を設立する。自分の細胞を使う場合より費用や治療期間が大幅に削減できるため再生医療の普及に弾みがつきそうだ。

日立は理化学研究所など医療分野の研究開発拠点が集積する神戸市内に「日立神戸ラボ」を1日付で開設する。まず10人前後の研究者を配置する。再生医療分野ではこれまで大学内に自社の研究者を常駐させる例はあったが、自前で研究開発拠点を設けるのは初めて。

i P S細胞や幹細胞など再生医療に使う細胞を大量培養できる装置を実用化し、数年内に発売する考えだ。子会社で再生医療に使う細胞の受託製造事業に参入した日立化成のオフィスも併設しており、周辺の研究機関と連携し開発を加速する。

日本トリムは胎盤やへその緒などから細胞を採取し、その幹細胞を治療に使う細胞医薬品を開発するヒューマンライフコード（東京・千代田）を5日付で新設する。

再生能力が高く、免疫による拒絶が起きにくい胎盤などの組織から細胞を取り出し、培養して治療に使う。日本トリムは「民間さい帯血バンク」の国内最大手であるステムセル研究所を傘下に持つ。同社のネットワークを活用してドナー（提供者）から胎盤などを集めて保管。やけどや自己免疫疾患の治療薬として開発したい考えだ。

前もって準備できる他人由来の細胞を使うのに加えて、医療廃棄物となっていた胎盤などを活用するため、治療費もかなり抑えられるとみる。これから国内で臨床試験（治験）に入る予定で、2020年にも製造販売承認の取得を目指す。

エーザイは歯の細胞を活用する。全国の歯科医療機関と連携し、「歯髄細胞」を保管しているベンチャー、セルテクノロジー（東京・中央）と契約した。エーザイがアルツハイマー病やパーキンソン病などの一部を対象に細胞医薬品を開発したい場合には、原料となる歯髄細胞の提供を独占的に受ける。

理研などがこのほど実施した他人のi P S細胞を使う目の難病治療は研究目的で、一般に広く使われるためには治験を経て製品にすることが欠かせない。国内では重症のやけどや心不全向けなどの再生医療製品が保険適用を受けているが、ほとんどが自分の細胞を採取・培養して使っているため治療費が高い。他人の細胞を使う再生医療製品の開発の動きが加速すれば、再生医療の本格普及に向けて大きな前進となりそうだ。